
日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2008 年度 NO.2

目次

- ・ 第9回大会を終えて
- ・ 第10回大会を開催するにあたって
- ・ 2008年度総会報告
- ・ 理事会報告
- ・ 2007年度事業報告ならびに決算報告
- ・ 2008年度事業計画ならびに予算
- ・ 企画研究委員会報告
- ・ 10周年記念事業の検討状況について
- ・ 2008年度高良記念研究助成対象者決定
- ・ 関西支部主催「研究会」のお知らせ
- ・ 九州支部設立ならびに研究会のお知らせ
- ・ 会則改定ならびに理事選挙予定について
- ・ 事務局便り
- ・ 新入会員リスト、退会リスト

第9回大会を終えて

(第9回大会委員長 石田宏之 豊橋創造大学)

無事大会を終えることができほっとしているところで、大会の準備及び実行するにあたっては、学会員の皆様及び企業・高校ならびに当大学の教職員の方々に多大のご協力を頂いたことに深く感謝しております。大会が成功裏に終了しましたのも、これらの方々の暖かいそして真摯な取り組みの賜物と思っております。当日の参加者も160名強となり、地方での開催としては成功であったと自負しております。

当日は、大会の運営・企画など滞りなく進行しているが、各セクションの参加者にばらつきはないかなど余分なことが気になり、落ち着いて発表を聞くことができなかったことを反省している次第です。以下、準備期間及び当日の運営を通して、インターンシップにおける縦の関係（産学官の連携）に関して感じたことをまとめて大会の御礼に変えさせていただきます。

まず、会員の参加が、参加者全体の約3分の1（企業会員含めて56名）に留まってしまったことについては、当学会の特殊性を考えても、何らかの活動が不可欠であると感じました。と同時に、大学関係者以外の方々に会員になってもらうことの大変さを、事前準備での発表依頼、参加依頼を通して痛感しました。また、大学関係者についても、会員数が増大した状況にも拘らず、参加者が少なかったことが残念であり、今後大会を開くに当たって抜本的対策が必要と思われま

す。企業との連携については、当日の参加者が約50名弱の参加者を得たことは、これまでの当大学のインターンシップ委員会の地道な努力が報われたのではないかと安心しました。しかしながら、各企業との繋がりには温度差があり、インターンシップの受け入れ方も様々で、短期・長期、実習内容等いくつかのパターンに分けて、地域連携のあり方を作成しそれぞれの効果と評価を提示していかなければならない時期に来ていると思われま

す。高校との連携については、高大連携がいられている割には、ほとんどその内容と目的を理解していないことに気がつきました。準備を始めた当初は大学として高校

の手助けが簡単にできると自惚れており、依頼すれば喜んで参加していただけたと思っておりました。今回がついたことは、高校のインターンシップの参加は、就職あるいは職業・技術と身近な工業高校および商業高校では積極的であるが、進学を目的としている普通科高校では積極的になれないという事情があるということです。また、開催の曜日については、高校では、土曜日も色々な行事が詰まっており、授業がなくても参加しにくい事情があるということもわかりました。

官については、市、県の教育委員会、商工会議所等の後援をいただき、運営等についてそれなりの効果と役割分担がありました。しかし、動員数の増大やインターンシップの具体的支援等のあり方を模索する上では、どのような役割を担うべきかを示すことはできなかった。今後、官との話し合いの場を増やし、この分野についての役割分担を明確に示し、官との連携のあり方を具体的に提示しなければならぬと感じました。

いずれにしても、地域における産学官の連携を具体的に明示していくためには、日頃の付き合いを通じた地道な努力とエネルギーが不可欠であり、これまで積み上げられてきた学会活動の成果を具体的指針として活用していくことが重要であると感じている次第です。

最後になりましたが、関係者の皆様のご支援とご協力のおかげで無事大会を終えることができましたことを、再度御礼申し上げます。

『学会誌』への投稿お願い

大会での研究発表ありがとうございました。研究発表を『学会誌』へ掲載したいと思いますので、発表者の方は投稿規程(学会誌の最後のページにのせてあります)をお読みの上、編集担当まで提出してください。なお、11月末ごろには、改めて発表者の方々には、再度ご連絡します。発表者以外の会員の方々も是非ご投稿をお待ちしています。原稿締め切りは来年の1月20日とします。

・第10回大会を開催するにあたって

(第10回大会実行委員長 古閑博美 嘉悦大学短期大学部)

第9回大会会員総会においてご承認を得たことにより、記念すべき第10回大会を嘉悦大学で開催する運びとなりました。10年一区切りと申しますが、これまでの学会運営の越し方を振り返り身の引き締まる思いでお引き受けいたしました。

紙面をお借りし、実行委員長として一言ごあいさつ申し上げます。

本学会への注目は、産官学におけるインターンシップへの関心や参加が定着するにつれ高まっております。それにともない、大会は年々隆盛の一途をたどるようになりました。申すまでもなく、これは会員の皆様、関係各所のご支援ご協力にあずかってのことであり、研究や実学、政策などの観点から本学会の取組みが期待されます。今後、国内外の研究者、実務家同士の交流をますます深めることが肝要であり、大会はその機会となります。

高良和武前会長、田村紀雄会長、事務局、会員の皆様方のご指導ご鞭撻を賜り、先輩諸氏のご努力の道筋を第10回大会につないでいきたいと存じます。

キャンパスはちいそうございますが、おもてなしの気持ちは今から大きく膨らんでおります。ご参加のほど、お待ち申し上げます。

・2008年度総会報告

(事務局長 吉本圭一)

2008年9月27日(土)豊橋大学において2008年度総会が開催され、審議に先立って榎本淳子理事への感謝状が贈呈され、その後以下の報告・審議が行われました。

- (1)2007年度事業報告ならびに各種委員会および支部活動について報告があり承認されました。
- (2)2007年度決算につき事務局長より報告があり、沢田隆監事から監査報告があり、これを承認しました。
- (3)役員選出方法および会則改正について、会長より提案があり、これを審議承認しました。引きつづき、役員選出に関する各種規程について審議承認されました。
- (4)2008年度事業計画について事務局長より提案があり、これを審議承認しました。
- (5)2008年度予算について提案があり、これを審議承認しました。
- (6)高良記念研究助成について、2007年度採択者の長尾博暢会員(追手門学院大学)への賞状授与、江口彰会員(北海道大学大学院)、2008年度採択者の真鍋和博会員(北九州市立大学)、渡邊和明会員(九州大学大学院)への研究助成金および賞状の授与が行われました。
- (7)2009年度の第10回大会については、嘉悦大学に依頼したい旨、会長から提案があり、古閑博美理事から受諾のご挨拶をいただきました。

・理事会報告

(事務局長 吉本圭一)

2007年度第5回理事会(3/22@筑波大学)

- (1)休会および長期滞納者の取扱について、審議の結果、個人会員・法人会員ともに、確認のうえ退会処理することとなりました。
- (2)事務局員が福岡哲朗会員から真鍋和博会員へ交代しました。
- (3)年報編集委員会において、現在の「投稿論文規程」「審査規程」を「編集規程」と「論文投稿規程」に再編成することが提案され、提案通り承認されました。
- (4)役員選出規程WGおよび十周年記念事業WGを組織して業務を扱うこととしました。

2008年度第1回理事会(6/28@九州大学)

- (1)2007年度決算案および監査報告、2008年度予算案、活動計画について提案があり、これを承認しました。
- (2)日本学術会議協力学術団体への登録が報告されました。
- (3)榎本淳子理事から寄付金の寄贈があり、これを受理しました。
- (4)役員選出規程WGからの提案をもとに審議し、今後、理事選出のための選挙を行うこととし、会則改正準備をすることとしました。
- (5)第9回大会の準備状況について、石田宏之理事より報告がされました。

2008年度第2回理事会(8/31@キャンパスイノベーションセンター)

- (1)高良記念研究助成について、7名の応募があり、審査委員会の選考結果に基づいて2名の課題につき研究助成を採択しました。
- (2)役員選出規程WGの提案による、会則改正案および理事選出規程について、審議の結果これを承認しました。
- (3)大会の準備状況について、石田宏之理事、見目喜重会員より報告がありました。

・企画研究委員会報告

(企画研究委員委員長 田中宣秀)

研究会のお知らせ

- (1)第2回研究会：
日時：2008年12月13日(土)
関西支部と合同で実施。開催場所、テーマ等は関西支部の支部活動報告を参照
- (2)第3回研究会：
日時：2009年3月14日(土)午後
場所：筑波大学東京キャンパス
テーマ：所謂「1～3日の企業見学・職場体験」をどの

ように考えていくか(仮題)

(3) テーマについて

受入先の企業等が多忙になっており、1～3日で開催される企業見学・職場見学などが増えている。一部には、短期インターンシップと称し、学生を採用するための母集団を確保する目的と考えられる企業見学等も行われ、“形骸化するインターンシップ”としてマスコミで揶揄されることもある。

しかしながら、事前に見学先の企業概要などについて

事前に勉強会を重ねた上で事業所を見学する方法や週に1度程度、数時間を観光ガイドなどの実習を行い、長期にわたってインターンシップを実施する例もある。したがって、短期間で実施する形態を一概に悪いものと決めつけることもできない。

今回は、こうした所謂“超短期の企業見学・職場体験”について事例報告をいただきながら、インターンシップという用語の使用可否を含めた議論をシンポジウム形式で行う予定である。

・2007年度事業ならびに決算報告

(事務局)

「理事会・総会報告」にてご報告いたしましたとおり、2007学会年度事業報告ならびに決算報告について総会で承認されました(決算報告については下記)

2007(平成19)年度 日本インターンシップ学会 収支計算書
(2007年4月1日～2008年3月31日)

【一般会計】				(単位:円)			
支出の部	2007年度予算(a)	2007年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2007年度予算(a)	2007年度決算(b)	予実差異(b-a)
研究会費用	400,000	144,406	-255,594	会費収入	1,325,000	2,065,000	740,000
(東京会場)		44,406		(個人会員)	700,000	1,170,000	470,000
(関西支部)		100,000		(法人・団体会員)	600,000	840,000	240,000
大会開催費補助	300,000	300,000	0	(学生会員)	25,000	55,000	30,000
年報印刷費	350,000	278,930	-71,070	研究会収入	5,000	9,000	4,000
名簿作成費	30,000	63,920	33,920	書籍・年報等販売収入	12,000	21,000	9,000
通信費	80,000	97,660	17,660				
HP修正・改善費	100,000	89,700	-10,300	その他	500	1,357	857
その他運営費	250,000	178,576	-71,424	(受取利息)	500	1,197	697
				(雑収入)	0	160	160
				大会開催費余剰金	0	82,067	82,067
				関西支部余剰金	0	50,000	50,000
次年度繰越金	497,377	1,740,109	1,242,732	前年度繰越金	664,877	664,877	0
合計	2,007,377	2,893,301	885,924	合計	2,007,377	2,893,301	885,924

【特別会計(高良記念研究助成)】				(単位:円)			
支出の部	2007年度予算(a)	2007年度決算(b)	予実差異(b-a)	収入の部	2007年度予算(a)	2007年度決算(b)	予実差異(b-a)
2007年度研究助成金(2件採択)	0	200,000	200,000	受取利息	0	990	990
振込手数料	0	1,050	1,050		0	0	0
次年度繰越金	0	799,940	799,940	前年度繰越金	0	1,000,000	1,000,000
合計	0	1,000,990	1,000,990	合計	0	1,000,990	1,000,990

2007(平成19)年度 貸借対照表兼財産目録(2008.3.31現在)

資産の部		負債・純資産の部	
流動資産	2,540,049	流動負債	0
手持現金	149,942		
預金	2,390,107	固定負債	0
福岡銀行(一般会計)	266,537		
福岡銀行(特別会計)	799,940	純資産	2,540,049
郵便振替口座	1,323,630	剰余金	2,540,049
		(一般会計繰越金)	(1,740,109)
固定資産	0	(特別会計繰越金)	(799,940)
資産合計	2,540,049	負債・純資産合計	2,540,049

(注)本来は貸借対照表と財産目録を個別作成する必要があるが、財産が僅少のため当面本表にて対応することとする。

・2008年度事業計画ならびに予算

(事務局)

「理事会・総会報告」にてご報告いたしましたとおり、2008学会年度事業計画ならびに予算について総会で承認されました(予算については下記)。

2008(平成20)年度 日本インターンシップ学会 一般会計 予算

一般会計【収入の部】

(単位:円)

大科目	中科目	2008年度予算額	前年度予算額	2007年度実績	2006年度実績	予算増減
会費収入	小計	1,475,000	1,325,000	2,065,000	1,275,000	150,000
	個人会員(10,000円)	810,000	700,000	1,170,000	770,000	110,000
	法人・団体会員(20,000円)	640,000	600,000	840,000	500,000	40,000
	学生会員(5,000円)	25,000	25,000	55,000	5,000	0
事業収入	小計	17,000	17,000	30,000	7,000	0
	研究会収入	5,000	5,000	9,000	3,000	0
	書籍・年報等販売収入	12,000	12,000	21,000	4,000	0
雑収入	小計	500	500	133,424	30,767	0
	受取利息	500	500	1,197	127	0
	その他の収入	0	0	160	0	0
	大会開催費余剰金	0	0	82,067	0	0
	関西支部余剰金	0	0	50,000	30,640	0
	当期収入合計(A)		1,492,500	1,342,500	2,228,424	1,312,767
前期繰越収支差額		1,740,109	664,877	664,877	513,704	1,075,232
収入合計(B)		3,232,609	2,007,377	2,893,301	1,826,471	1,225,232

一般会計【支出の部】

大科目	中科目	2008年度予算額	前年度予算額	2007年度実績	2006年度実績	予算増減
事業費	小計	1,350,000	1,080,000	787,256	955,905	-270,000
	研究会開催費	400,000	400,000	144,406		
	研究会費用(東京)			44,406	112,700	
	研究会費用(関西)			100,000	100,000	
	研究会費用(九州)					
	大会開催費	300,000	300,000	300,000	421,700	0
	年報印刷費	400,000	350,000	278,930	321,505	-50,000
	記念事業費	200,000	0	0	0	-200,000
名簿作成費	50,000	30,000	63,920	0	-20,000	
事務管理費	小計	550,000	430,000	365,936	205,689	-120,000
	通信費(郵送料等)	150,000	80,000	97,660	10,920	-70,000
	HP修正・改善費	100,000	100,000	89,700	31,200	0
	その他運営費	300,000	250,000	178,576	163,569	-50,000
予備費	予備費	1,332,609	497,377	1,740,109	664,877	-835,232
当期支出合計(C)		3,232,609	2,007,377	2,893,301	1,826,471	-1,225,232
当期収支差額(A)-(C)		-1,740,109	-664,877	-664,877	-513,704	1,075,232
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	0	0	0

・10周年記念事業の検討状況について

(10周年記念事業WG委員長 田中宣秀)

日本インターンシップ学会は、来年、10周年を迎える。目下、10周年記念事業検討委員会では、記念大会を1日半で行い、前日に記念講演会とミニシンポジウムを開催する案や10周年記念論文集を刊行する案をベースに検討が進められている。

そのうち、10周年記念論文集を刊行する案は理事会において基本的に了承され、過去10年間の学会の歩みやインターンシップの現状・将来について、具体的な執筆項目を検討中である。現在のところ、

次のような内容にて執筆すべく議論を重ねているが、会員の皆様のなかで、これに関連した貴重な資料等をお持ちでしたら、10周年記念事業検討委員会までご一報をお願い致したい。

<目次案>

- * インターンシップ学会組織の10年間(会員数、組織、会則、支部設立など)
- * インターンシップ学会における諸活動(研究会の発表内容、学会大会のテーマの推移など)
- * インターンシップの将来(目下アンケートを作成中であり、会員の皆様のご要望などをもとに今後

の展開を検討する)

* インターンシップ前史について(1997年に制度としてのインターンシップが始まったが、わが国は工場実習や教育実習、保育・介護実習など現場実習などの歴史は古い。こうしたインターンシップ前史が果たしてきた役割・教育効果などを振り返る)

・2008年度高良記念研究助成対象者決定

(高良記念研究助成審査委員長 那須幸雄)

本学会では、インターンシップに係る研究や実践活動の発展、普及のため、2007年度からこの助成制度を設けて、会員(個人・法人・学生)に対して、優れた研究課題への助成を行っています。2007年度の第1回研究助成を受けた2名の研究者は、2008年9月の第9回大会(豊橋創造大学)で成果を発表しました。さらに研究年報に投稿する予定です。

2008年度の第2回研究助成には、7件の応募があり、審査委員会による審査を経て、次の2名に対して研究助成を行うことを理事会において決定しました(順不同、敬称略)。

・真鍋 和博(北九州市立大学)

「インターンシップタイプによる基礎力向上の効果について」助成額 90 千円、共同研究

・渡邊 和明(九州大学大学院生)

「専門学校における日本版デュアルシステムの開発的研究 ワーキングスタディ科の事例を中心に」助成額 100 千円、単独研究

研究期間は、2009年9月末までの1年間で、2009年の大会で成果を研究発表することになります。またその1ヵ月後までに「研究終了報告書」と「研究経費使用報告書」を学会事務局に提出することになります。

2009年度には、第3回研究助成を募集します。募集期間は4~6月の見込みです。

・関西支部主催「研究会」のお知らせ

(関西支部長 加藤敏明)

関西支部は12月13日(土)、キャンパスプラザ京都(第一講習室)にて開催予定の第4回支部主催に向けて準備を進めています。学校種によるインターンシップ、キャリア教育を考える支部としての基本方針の下、今回の対象は女子大学です。女子学生教育は、学校種を超えた教学上の懸案でもあります。

折衝の結果、発表校は京都女子大学、安田女子大学となりました。京都女子大学の取組みは平成18年度現代GPの採択プログラムで、伝統校らしく教養教育に位置づけながらキャリアセンターなど学内組織と幅広く連携した総合的な取組みです。

一方、安田女子大学においては、地元のプロサッカーチームと連携した実にユニークな取組みが展開されています。地域との連携においても高い波及可能性を持つ取組みであると思います。

・九州支部設立ならびに研究会のお知らせ

(九州支部長 吉本圭一)

九州在住の会員を対象とした研究ならびに研究交流の場として、九州支部の設立総会を2008年6月27日(金)九州大学で開催し、設立趣意書を採択しました。2008年度設立時点での支部域内の31会員のうち19会員が設立総会に参加しました。支部役員は以下の通りです。

支部長 吉本 圭一(九州大学)

副支部長 中原 淳二(福岡県インターンシップ推進協議会)

副支部長 真鍋 和博(北九州市立大学)

幹事 安部 恵美子(長崎短期大学)

幹事 江藤 智佐子(久留米大学)

幹事 岡本 信弘(福岡市立博多工業高等学校)

幹事 高山 哲信(福岡県専修学校各種学校協会)

幹事 渡邊 和明(福岡カレッジ・オブ・ビジネス)

第1回研究会(6/27)報告

総会に引き続き、支部第1回研究会(学会本部の2008年度第1回研究会を兼ねる)を開催しました。テーマは『事例に学ぶ3-winインターンシッププログラム』で、「学生イニシアティブの展開」真鍋和博(北九州市立大学)、「専門学校のワーキングスタディ」渡邊和明(福岡カレッジ・オブ・ビジネス)、「普通高校のキャリア教育」米原光昭(福岡県立公立古賀高校)、「CSRとキャリア教育」澤田和知(コクヨ九州販売株式会社)の各氏発表をもとに、参加者74名(うち非会員31名)とともに、支部の研究課題や、企業のCRSの考え方など活発な議論ができました。

九州支部では、今後も、九州各地の学校・大学・企業・行政等の関係者をタテ・ヨコに柔軟に結びつけ、新たな教育革新のネットワークを構築する場となるよう、研究会・研修会等を開催していきたいと存じます。どうぞ、みなさまのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第2回研究会(11/22)のお知らせ

第2回研究会は、『インターンシップが深める地域連携』というテーマを設定して、11月22日(土)13:30~電気ビル7号会議室(福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号電気ビル7号会議室)で、福岡県インターンシップ推進協議会との共催で実施します。

第1部は、櫻木祐宏氏(長崎県インターンシップ推進協議会)から『地方行政の地域連携の取り組み』と題して、行政が関わるインターンシップ支援を通じた地域連携の仕組みとその効果についての事例発表を行います。武内裕二氏(東海大学九州短期大学)からは『地域が持つ資源を利用した教育の事例と成果』と題して、短期大学における地域密着型教育の事例を発表いただく予定としております。

また、今回は九州支部第2回研究会終了後、福岡

県インターンシップ推進協議会の企画する『インターンシップの本音 Q&A』と題して、インターンシップにおける学生側のホンネと企業側のホンネをぶつけ合う、ワークショップを開催します。こちらは福岡県インターンシップ推進協議会学生スタッフの協力により運営します。みなさまご参集ください。

・会則改正ならびに理事選挙予定について

(事務局)

「理事会・総会報告」の2008年度総会の項でご報告致しました通り、役員選出方法の変更が総会で承認されたことに伴い、本頁右上の通り会則が改正されました。(以下、改正該当箇所抜粋)

あわせて理事選挙規程を制定し、次期役員選出のため、2009年3月末日までの年度会費納入済みの会員を選挙権者として2009年4～5月に理事選挙を行う予定です。詳細は、今後、ホームページ等で逐次連絡していきます。役員選出、また理事会運営について多くのみなさまの意向を反映して参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願いたします。

旧
(役員の選任)
第11条 理事は、総会において、原則として個人会員の中から選出する。
2. 会長、副会長、常任理事は原則として理事の互選とする。
3. 監事は、総会において個人会員の中から選任する。
4. 理事のうち若干名を大会開催予定校より会長が指名することができる。
5. 事務局長は会長が指名する。

新
(役員の選任)
第11条 理事は、会員による選挙及び会長による指名によって、原則として個人会員の中から選出し、これを総会で承認する。
2. 選挙による理事は20名とし、選挙の手続は別に定める。
3. 会長、副会長、常任理事は原則として選挙による理事の互選とする。
4. 会長指名の理事は若干名とする。
5. 監事は、総会において個人会員の中から選任する。
6. 事務局長は、会長が指名する。

事務局便り

日本学術会議の協力学術研究団体に登録

さる5月22日に、日本学術会議の協力学術研究団体として指定されました。学術会議からさまざまな研究支援情報が提供されるとともに、メールマガジンが定期的に送付されてきていますので、本学会に関連する特集等については、ホームページ等で紹介

していく予定です。

日本インターンシップ推進協会への協賛

12月3日(水)14:00～17:00に日本大学経済学部にて開催される、日本インターンシップ推進協会主催「平成20年度インターンシップ成果発表会」へ協賛いたします。

会員情報変更の連絡について

所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局宛お届け下さい。連絡先が不明になりますと、年報やニュースレター、大会案内などの会員サービスが受けられなくなりますので、ご注意下さい。

会費納入先

【郵便振替】

口座番号 01760-9-118957

加入者名 日本インターンシップ学会

【銀行振込】

福岡銀行箱崎支店 普通 2175253

(電信振込の場合は「ニホンインターンシップガッカイ」と入力下さい。)

会費納入のお願い

2008年度会費納入を受け付けております。会費未納の方は、今回お送りいたしました郵便振替用紙かゆうちょ銀行からの振込(ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は手数料が無料です)で、下記振込先までお送り下さいますようお願いいたします。なお、銀行振込でも受け付けております。

日本インターンシップ学会 News Letter 2008.No.2

平成20年11月7日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 田村 紀雄

編集 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 吉本 圭一

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学教育学部 教育社会学研究室内

電話 092-642-3125 FAX 092-642-4355

E-mail jsi-edu@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

Website <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsi/>